

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 5 号)

1 平成4年9月21日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	13番 榎本 春光
14番 小宮 利夫	15番 山中金治郎
16番 鈴木 勝美	19番 川名 正二
20番 生稲 隆	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	25番 流山源次郎
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 4名

12番 岩村 勝弘	17番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏	23番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 福原 修 教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第5号）

平成4年9月21日午前10時開議

- | | | |
|------|-------|-----------------------------------|
| 日程第1 | 認定第1号 | 平成3年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第2号 | 平成3年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第3号 | 平成3年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第4号 | 平成3年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第5号 | 平成3年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第6号 | 平成3年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について |
| | 認定第7号 | 平成3年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について |

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数23名、これより第3回市議会定例会第5日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、認定第1号乃至認定第7号、平成3年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。なお、発言の際はページをお示し

くださるようお願いいたします。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) 平成3年度決算に関してお尋ねをいたします。私の質疑は決算事項別明細に沿って行ってまいりたいと思います。

まず、一般会計についてであります。歳入について、17ページ、法人市民税収入額6億8,700万余円に関してお尋ねをいたします。

閣議了解を得た政府の平成4年度の経済見通しと経済運営の基本的態度によれば、企業収益は総じて減少しているとのこととあります。いわゆるバブル景気は崩壊と言われるように、景気の過熱状況は既に過去のものとなったのではないかと思うのであります。こうした全国的な状況の中で、館山市内の企業や事業所もやはり同じような問題を抱えているものと思います。

そこでお尋ねをいたしますが、市長は市内事業所の法人市民税の動向とあわせて、市内の景気の動向についてどのように見ているのか御説明をいただきたいと思います。

次に、24ページであります。総務手数料中の諸証明手数料315万2,650円についてお尋ねをいたします。

これはいわゆる年金の現況証明手数料が含まれているものと思いますが、この無料化についてはこれまでもたびたび議論されてまいりましたが、近隣の市町村においても無料化に踏み出していると聞きます。この年金現況証明手数料の無料化の動向について、県内30市の状況及び安房郡市の動向について御説明ください。また、こうした動向とあわせて、館山市としてはどうするのか、そのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、歳出についてであります。97ページ、観光費の委託料中、館山市観光振興基本計画策定委託料600万円及び98ページの負担金補助及び交付金中の房総リゾート地域整備推進連絡協議会負担金10万円、リゾート重点整備地区整備推進連絡協議会負担金39万1,000円に関してお尋ねをいたします。それぞれ館山の観光、リゾートに関しての支出であります。

先月6日、国土庁の総合保養地域整備研究会がリゾート開発見直しの中間

取りまとめを発表いたしました。これ自体は現行法の適切な運用を求めたもので、リゾート法そのものの見直しという視点を持たないなど大変不十分なものでありますが、しかし注目すべき点もございます。それはリゾート法に基づく開発が自然環境の保全の観点、地域振興の観点よりも短期的な事業の成果が重視されたなどと乱開発の実態に対して一定の反省を示している点であります。その上で、今後のリゾート整備に当たっては、家族が長期滞在できるような料金水準などの方向も打ち出しています。少なくとも年に1回は1週間程度の滞在が家族でできる料金水準のリゾートということになると、現行の館山で計画されておりますゴルフ場を中心としたリゾート開発ということではあり得ないことだろうと思うのであります。この中間見直しは、その後ことしじゅうにも最終報告が出るということになるようではありますが、どのように受けとめられておるのか御説明をいただきたいと思います。

次に、リゾート開発との関係で、市自身の姿勢について明らかにしていただきたい点がございます。株式会社ニューライフゴルフリゾートについてであります。

既に御存じのとおり、県はこの4月からゴルフ場開発を原則的に凍結することに決めました。許されるのは例外的な特殊の事情がある場合だけであります。この凍結の措置の実施に当たり、3月31日までに市町村において相当程度協議、相談がなされているもので、この6月30日までに市町村長から事前協議申出書の進達が県で受理されたものについてはなお従前の例によるとこの凍結実施に当たっての経過措置が定められております。

ニューライフリゾートのゴルフ場計画の事前協議申出書は6月29日付で受理されております。このことについては、ニューライフリゾート自身が館山市からもニューライフの開発計画に極めて好意的、積極的な御指導をいただくことができました。異例の速度で各会議を開いていただき、その中でニューライフの事業計画の説明を聞いていただき、6月29日には館山市よりリゾート地域における大規模複合開発事業にかかわる事前協議申出書が千葉県へ進達、受理へと進めていただきましたと地元地権者への説明文書の中で明らかにしております。4月24日のゴルフ場開発審査申出書の提出に始まり、と

この文書では記されております。この時点は既にゴルフ場の凍結が宣言されておりました。経過措置の対象となるものは、3月31日時点で市町村で相当程度協議、相談がなされているものでなければなりません。この文書では3月31日以前に相当の協議がなされていたとは全く書かれておりません。4月24日から6月22日まで慌ただしく市が各種の会合を重ねて市としての決定を急いだことが具体的に示されております。なぜ市はゴルフ場凍結の県の方針の抜け駆けまがいなことを進めたのでありましょうか。

また、この文書では地元地権者の70%の同意しか得られていないと述べていますが、県の方針では当該市町村及び地元住民から積極的かつ強力な要請があるものということが条件になっております。70%ということは極めて低い水準であります。十分住民の同意を得ていないにもかかわらず、なぜ市は同意したのでありましょうか。

さらに、ゴルフ場計画は当該市町村における地域振興との計画に位置づけられており、かつ当該計画が市町村議会の議決を経て策定された計画、構想及び国土利用計画を初めとする計画との整合が図られていることが必要とされております。この問題についてはこれまで議会では全く説明がありませんでした。議会で議決した計画との整合について議会に全く報告する必要もないと判断されたのでしたらとんでもないことであります。むしろ議会では、例えば昭和63年の3月市議会では私は神余地区のゴルフ場問題について質問いたしました。当時半澤市長は市の宅地開発基準により水源地にゴルフ場開発は認めないと明確に答弁したのであります。白浜町議会では、水源保護林を守れということで、この神余のゴルフ場開発についてを想定し、決議をいたしました。水源を守るということは命を守ることです。市はこのゴルフ場開発についてどのように考えているのか、その計画内容と市の意見について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、125ページであります。社会教育費、社会教育総務費の報酬中、文化財審議会委員報酬11万 8,800円、126ページの文化財誘導案内板設置工事請負費66万 9,500円、文化財標柱設置工事請負費7万 8,280円、文化財説明板等製作用材料費6万 6,353円、127ページの負担金補助及び交付金中、館

山市文化財保護協会補助金15万円など、市の文化財行政に関してお尋ねをいたします。

先日、館山湾、沖ノ島のサンゴ礁について、その存在が環境庁によって確認されたことが報道されました。この沖ノ島のサンゴ礁については、その存在がこれまでさまざまに言われてまいりましたが、今回環境庁がその規模から公的にその存在を確認したことの意味は大変大きなものがあるかと思うのであります。

まず、このサンゴ礁は現在北限と考えられている極めて貴重なものであります。その生存のぎりぎりの環境で生息しているもので、館山の環境の特徴点を端的に物語っていると思うのであります。私たちの館山はサンゴ礁のあるまちということの意味をしっかりと把握することは重要なことであると思うのであります。

また、同時に世界的に有名な示相化石である沼サンゴ礁のサンゴが連綿と現在に生存していたという意味でも大変大きな意味を持つものと思うのであります。6,000～8,000年ほど前は地球が今よりも暖かく、館山の周辺は現在の沖縄などのような気候で、大規模なサンゴ礁に囲まれていましたが、これが現在標高20メートル前後の山から出てくる大量の化石サンゴで、その調査がされた地名から沼サンゴと言われております。この化石化したサンゴが現在も生息しているのであります。この地域の環境の変化等の歴史を知る重要な証拠となるものであります。

私はこのサンゴ礁は守るべき重要な文化財として大変に貴重なものではないかと思うのですが、市はどのようにお考えでありますか。この環境庁によるサンゴ礁の存在確認は、同時にきちんとした保存措置が急がれているのではないかと思うのであります。いかがでしょうか。保存のために調査が必要だと思いますが、この海域のサンゴの調査を急いで実施するお考えはありますか。あるいは県にお願いをするなり、何らかの形でそうしたことが必要かと思います。市のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、149ページであります。国民健康保険会計についてお尋ねをいたします。

国保税は、一般被保険者では現年課税額14億 2,600万余円に対して1億 1,400余万円もの収入未済額を抱えております。金額にして約8%が未納となっているわけであります。3年度以前の収入未済額も2億 5,200万余円にもなっております。払い切れないほど高くなっているからであります。そんなに国保税を高くする必要があるのかということでありますが、決算の結果から見ると、3億 500万円もの大幅な黒字を計上しております。この決算の結果はもっと国保税を安くしてでも十分であったことを示しております。払い切れないほど高くなっている国保税はもっと安く、払える水準にすることが必要であります。その点で、4年度市は初めて ― わずかではありますが、一部の税率の引き下げに踏み出したことは評価できることであります。しかし、実際は安房郡市でも、また県内でも各市で引き下げが実施されました。

そこでお尋ねいたしますが、館山市の国保税の水準についてどのようなになったのか、県内30の市や安房郡市と比較して、平成3年度及び4年度について御説明をいただきたいと思うのであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第1の小さな第1点目、法人市民税の動向でございますが、平成3年度法人市民税につきましては、市外の大手法人が景気後退の影響を受け、平成2年度と比較いたしまして減収となったところでございますが、他の法人が堅調に推移したため、平成3年度当初予算につきましては確保できたところでございます。

なお、平成4年度につきましては、法人市民税の約3分の1を占めます25の法人の3月期決算を調査いたしましたところ、前年度実績の約3割程度の減収となっており、法人市民税全体では8月末現在対前年同月比約17%の減となっております。しかしながら、市税全体といたしましては当初予算に計上いたしました税収は確保できる見通しでございます。

次に、小さな第2点目、年金証明手数料の動向についての御質問ござい

ますが、現時点での県下30市の状況は、24市が無料、6市が有料でございます。また、安房郡内では3町が無料、6町村が有料となっております。館山市における今後の動向につきましては、このような県下及び安房地域の状況を踏まえまして前向きに検討しているところでございます。

次に、大きな第2、歳出の観光費に関する小さな第1点目、リゾート開発の中間見直しについての御質問でございますが、本年8月、国土庁の総合保養地域整備研究会から今後のリゾート整備のあり方についての中間報告が発表されました。市といたしましてもこの提言を参考として受けとめ、国及び県の動向を踏まえながら、2つの進行しているプロジェクトにつきまして事業者と協議してまいりたいと考えております。

次に、株式会社ニューライフゴルフリゾートについての御質問でございますが、内容といたしましては館山市神余地区にゴルフ場を含むスポーツ施設の計画で、全体面積は162ヘクタールの複合開発でございます。

なお、本計画につきましては、地元神余区から要望もあり、地域振興に資するものと考えております。

大きな第2の小さな第2点目、文化財費につきましては教育長より答弁申し上げます。

次に、大きな第3、国保税の比較についての御質問でございますが、平成3年度決算におきまして館山市の1世帯当たりの調定額は15万7,902円で、県内30市中12位、安房郡市では10位となっております。また、平成4年度本算定では、館山市の1世帯当たりの調定額は15万5,813円で、県内30市中10位、安房郡市では5位となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

大きな第2の小さな第2点目、社会教育費の文化財費についての御質問でございますが、人間の生活環境の基礎的条件となっている貴重な自然を保存し、後世に残すことは大切なことであると認識をいたしております。

御質問の沖ノ島生息サンゴにつきましては、既に館山市文化財審議会においても話題として出ております。今後も審議会の意見を聞きながら検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まず、景気の動向の問題でありますけれども、昨今の新聞報道によりますと、NMBセミコンダクターを新日鐵が買収するというような話があって、それはそうじゃないというような話がまた報道されたり、本当のところはどうなのかなという — 今の景気の動向を端的に物語る話ではないかと思いますが、この問題について市への説明なり何なりはあったのかどうか。このNMBセミコンダクター社という会社は館山市も非常にいろいろかわりがあった会社でありますから、それなりの話があって当然かなと思うんですが、なければならないでしょうがないですけれども、あればその内容について御説明をいただきたい。

次に、手数料の無料化、現況証明の問題であります。前向きに検討中だということで、10月からやったらどうか、前向きに検討するというのであれば。眼内レンズの助成を、400万円を今回補正で — これ要らなくなっちゃったからということで減額の補正出ていますけれども、この諸証明手数料の無料化をしても300万円ぐらいの財源ということで、財源的な問題はないというふうに私は理解するんですけれども、前向きというのは来年で考えているのか、10月1日ぐらいからもうやりましょうというぐらいで — 安房郡内でも3町で既に実施して、県内でも30市中24市で実施の状況でありますから、遅きに失しているという認識を持っていただいて、できるだけとなると、やはり10月1日ぐらいからということを含めて検討しているのかという、その辺です。

それから、リゾートの問題であります。低料金、家族で、自然環境を保全し、地域の振興につながる、こういうことが今度の間取りまとめのポイントといいますか、ということではないかなと思うんですが、この提言の内容を既に進めております2つの民間プロジェクトとの間で話を進めたいとい

うことでありますから、それは話としてはわかるんですけれども、しかしこれまでの経過からすると、端的に言ってゴルフ場開発によるうまみといえますか、それを起爆剤にして複合開発をしていくという従来の路線、これがもう現実に破綻をしてきちゃっているという問題があるかと思うんです。そういう中でこうした話ということを出すわけですが、これは従来の路線そのものの修正にとどまらないのではないかというふうに思うんです。ですから、企業側にしてみれば、これまでのいきさつからすれば、とても受け入れられるような話ではないのではないか、こういう危惧を持つわけなんです。その辺について、これまでのいきさつとの関係で、こうした低料金で、家族で、自然環境を保全して、地域の振興につながる、こういうようなリゾート開発だということを進めていかれるというふうに考えておられるのかどうか、その辺のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

それから、次にニューライフリゾートの問題でありますけれども、162ヘクタール、複合開発で、神余地区の要望があったからということでもありますけれども、ニューライフさんが地元の地権者の皆様へということで残暑お見舞いのお手紙を配ったんです。その中でこれまでの経過説明ということでいろいろとる説明がされております。それによりますと、3月の31日までに相当の協議があったものは6月30日まで県は協議の対象にしてもいいですよとなっているんですが、4月の24日にゴルフ場開発審査申出書の提出があった。そして、その後5月6日、企画審議会、6月5日、事前審査部会、6月17日、連絡調整会議、6月22日、開発審査会ということで、館山市としては二月足らずで駆け抜けるようにしてこの問題についての審査を終えているんです。4月24日というのは県の要綱からいっても——3月31日までに相当の協議があったものというふうになっているのには抵触するんじゃないかなと思うんです。この辺は一体どうなっているのか。私はむしろ市が積極的にこれは——こういう県の新しいゴルフ場凍結の方針ですから、6月の30日までに何とか出せるように逆算をして、業者を指導してこういうことをやったんじゃないかという危惧さえ感じるんです。まずその出発点の3月の31日までに話が——これには全く説明もないし、協議の申出書もされていないという

ふうになっていますけれども、一体どうなんですか。

それから、地元の神余区の要望ということでもありますけれども、区で要望すれば市はどんどんやるんだということではなかったわけで、県の要綱でも市町村及び地元の積極的な要望ということがないとこれはやりませんよということになっているわけです。当該市町村及び地元住民から積極的かつ強力な要請ということになっているわけです。70%ということは、30%は同意しないという — 地権者の70%、地権者の30%が同意していないというのはかなり大きなことなんじゃないかなと思うんです。いわば見切り発車的にそれでもいいんだというふうに考えられたのはなぜなのか。

さらに、これは館山市の地域振興という中でこれまで位置づけを与えられていなかったんです。にもかかわらず今回急遽出てきて — 館山市がここまで5カ年計画なり計画つくっています。そういう中では全く位置づけられていない。こういう計画が急遽押し込められたという感じを私は持つんです。議会ではこれまで神余地区の問題についても議論があった中では、水源の関係から市としては — このニューライフリゾート自身ではありますけれども、それは市としてはやりませんという姿勢を打ち出していたわけですから、そういう点からしますとまさに寝耳に水の話で、議会に何らの相談もしないで — 今までの経過ということ踏まえた場合には、議会の問題についてどう考えておるのかなという点が非常に疑問に感じるところなんです。その辺はどういうことなんですか。

さらに、白浜町議会がこの9月の議会で水源保養林を守ってほしいということでの決議をして、既に市長さんあてにそうした内容のものが届けられたかどうかわかりませんが、まだ決議がされたばかりということでもありますから、まだ今後になるんかもしれないかもしれませんが、しかしその内容は既に新聞報道でされておりますのでよくわかるわけです。こうした白浜町議会の決議というものを踏まえてどういうふうに考えられておるのか、お考えがあったらお聞かせをいただきたい。

次に、サンゴ礁の問題であります。文化財審議会において検討するということで、そこで検討をぜひしていただかなきゃいけないと思うんですが、

問題は、これまでは私自身もこの沖ノ島のサンゴのことというのは聞いておりましたけれども、一般に公開するということになりますと、それが荒らされたりするという、そういう心配があったわけです。しかも、沖ノ島のサンゴは非常に特殊で、通常は10メートルとか20メートル、30メートルというような水深のところに生存しているのが、どういうわけだか沖ノ島のところでは5メートル程度の素潜りでもわかる、そういうような非常に浅い海域に生息をしているわけです。それだけに、保存ということから考えると、一般に公開することが果たしてどうなのかなということが非常に心配があったわけです。

今回環境庁がその存在を確認したという — いわば公的に認知された、こういう段階かと思うんです。言ってみれば、間髪を入れずにこの保全の問題については対策をとらないと、やはり大きな問題、禍根を残すことになりかねないと思うんです。これまで個人的に一生懸命やられてきた、調査をされてきた方もおりますけれども、しかしここは行政が積極的に、個人の力というのではなくして、あの海域全体についてかなりきちんとした調査をやはりやって、その保全、保存という問題を考える場合にもきちんとした調査がすべての前提になろうかと思しますので、そうしたことをまず早急にやる必要があるんじゃないか。それでなければ、文化財としての保存ということでも、どういう根拠や資料に基づいてやるかということ自身論議ができないわけですから、ですからまず積極的な調査ということについて補正を含めて検討していただいて、早急な対策が必要なんじゃないか。

これは私自身は、市自身でというよりも、むしろ沼サンゴというのは県の天然記念物に指定されているということもありますから、いわば沼サンゴと一体のものとして、沼サンゴが現存しているという、そういう意味合いにおいて、県の文化財として申請をする方がむしろいいのかなという考えを持っているんですけれども、いずれにしてもそうした調査という問題は地元が積極的に動かないとなかなか進まないことじゃないかなと思いますので、その辺についてどういうふうにお考えになっておるか。

それと、私はサンゴというのはまちおこしといいますか、館山のまちおこ

しという意味でも非常に大きな資源だ。暖かく豊かな海というイメージ、これ館山の財産だというふうに言っていましたけれども、まさにその暖かく豊かな美しい海のイメージを具体的に与えてくれるという点ではサンゴの存在というのは非常に大きな意味を持つということで、地域おこしといいますか、まちおこしとか、そういう視点からもこのサンゴというのは大変大事な資源じゃないかなと思うんです。そういう点でお考えがあったらお聞かせをいただきたいと思います。

それから、国民健康保険会計の決算に関してであります。館山市はこの4年度に国保税の一定の引き下げ、これを実施いたしました。そのことは私自身も評価いたしました。しかし、今の御答弁によりますと、平成3年度では30市中、館山市は国保税の水準が12位だったのが、値下げをしたにもかかわらず順位は10位に上がってしまった。安房郡の中では、平成3年度では10位ですから、安房郡の中では非常に安い部類になっていたのが、値下げをしたにもかかわらず5番目になってしまった。他町村の動向と比べますと、館山市の国保税の引き下げというのはその額が総体的に低かったんじゃないか。その結果がこういうことになったんじゃないか。ほかの市町村はもっと思い切った引き下げを実施したところが多かった、こういうことを端的に示しているんじゃないかなと思うんです。こうした他町村の動向という点から、館山市としてはこの事実についてどのようにお考えになっておるかお聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） NMBセミコンダクターの買収の件についてお答えをいたしたいと思いますが、買収の報道がございましたその日の朝、市長公室の方へ会社の方からそのような事実はないという電話をいただきました。俗に火のないところに煙は立たない、そういうたぐいではないかというような失礼なことを申し上げたんですが、そのような事実は全くないということで、翌日東京証券取引所で否定の記者会見を開く、こういうことでございまして、その事実につきましてはその後新聞報道で私どもも確認をいたしましたところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、年金の手数料の関係でございますけれども、いわゆる年度途中で検討しているかどうかということでございますけれども、そういうものも含めまして総合的に前向きに検討しているというところでございます。

それから、3番目の国保会計の他町村の実態の中でどういうふうな感想を持っているかということでございますが、御承知のとおり館山市の先般の引き下げにつきましては、中長期的な安定を求めて引き下げを行い、議会からも承認を得たわけでございますが、他市町村それぞれ引き下げのあったところ、なかったところあるわけでございますけれども、館山市としてはやはりこれでよかったというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） リゾート法運用の見直しに関する御質問にお答えいたします。

現在進められております2つのリゾートプロジェクトにつきましては、事業者の方から特に計画の変更とか、そういうふうな話は聞いておりません。当初の計画を進めていく、そういうような考えであると承知をいたしております。

ただ、週休2日制の進展や学校週5日制の施行によりまして旅行機会が増大してくるであろう、そういうことは十分考えられるわけでございまして、報告の中で言っておりますような低廉で質のよいリゾートの提供というようなことにつきましては、市長答弁にもございましたように、現在進められております2つのプロジェクトの計画の中での可能性を含めまして今後検討を深めていく必要がある、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、ニューライフゴルフリゾートの4月24日

の内協議はたしかにこの日に提出されております。ただし、平成4年度に入ってから計画概要であるとか、その説明あるいは申出書の提出等によってたびたび事業者が来庁し、担当課と協議を重ねているところでございます。

次に、神余地区に計画したゴルフ場の地元の考え方でございますけれども、まず第1点として、農業の後継者不足というのが非常に深刻でございます。次に、林地、山林があるわけでございますけれども、伐採、搬出等の費用を考えると、到底採算に合わないんだということ。このようなことから、地域振興の活性化のために、加えて周辺の雇用面においても、この山林を有効に活用していただきたいということをこの地元の部落の代表全員、あるいは前の区長さんであるとか、そういったことが来ております。非常に強く、しかも再三にわたっての要望でございます。

そして、市としては、このゴルフ場の計画の取り扱い要綱の中で、まず複合開発であるということ、それから千葉県の新しいゴルフ場の開発計画が自然環境保全に対して非常に厳しいものであって、そんなことからこの計画に対して市は拒否する要件は何もないというふうに判断したわけでございます。

そして、その事業者に対して2つの大きな要件を話してございます。1つは、白浜町から館山市に対しての要望を尊重して、まず長尾川の流域の水資源の涵養林保護等についての白浜町からの意見が提出されているため、今後白浜町を含めた水利権者と十分協議、調整の上同意を得ることということをもまず第1条件にしております。それから、さらに複合開発についてでございますけれども、館山市の目玉になるような特色のあるものをもう一度考えてくれということを要望してございます。

そんなことでございますけれども、さらに大分時間がたったことについては、白浜町とこの事業者とのやりとりでございますけれども、そんな中で、この白浜町に関係するものの中に、ゴルフ場のエリアを外しまして、複合リゾートを計画しております。ですから、一応流域にはゴルフ場はないということ館山市は判断しております。

さらに、神田議員さんがおっしゃいます 100%じゃなきゃいけないだろうということですが、とりあえず70%の同意は得ております。そして、

これについて今後水の、水利権の問題の同意書であるとか、あるいはこの70%から100%のものについては、事前協議から許可申請の段階があるわけですが、ここでも非常に厳しくされます。ですから、この新しいゴルフ場については果たしてできるかできないかというのは、環境アセス等がありますので、とりあえず内協議ということで窓口は通っておりますけれども、非常に困難性があると思いますが、事業者はこれについてはいろいろ解決すると思っておりますけれども、そんなことで、今までのゴルフ場とは違った新しい環境のゴルフ場ができ上がると私の方は判断しております。

それから、この地域が――議会ということでございますけれども、過去にここがゴルフ場ということで一応大部分の土地が買収されております。館山市はここが自然型の林間リゾートとしてのスポーツ施設ということを考えておりますので、そんなことで御理解願いたいと思っておりますけれども、何はともあれ地元から本当に強い要望であるということを御理解願いたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 沖ノ島にありますサンゴにつきましては、水深5メートル以内にある、割合、比較的浅いところにあるということで、非常に貴重なものであるということにつきましては十分認識をいたしております。

その保護対策につきましては、文化財審議会委員とか、あるいは地質学者、あるいは研究家、あるいは県教育委員会とも十分協議しなければ具体的な対策はできないんじゃないかと考えておりますので、そういう方向に従いまして今後とも検討を加えていきたい、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 白浜町は9月の18日に決議がなされ、館山市は9月の19日にその情報を得ております。向こうからの申し出はまだございませんけれども、その中で、先ほども申しましたとおり、白浜町を配慮いたしまして、この白浜町の同意書を取るようというのをこの業者に強く指導しており、それからもう一つは、これは白浜町との関係でございますけれども

も、ゴルフ場施設はそこには一切しないということで、ですから水については長尾川の方には行かないということを我々は判断して、これは白浜町と事業者との問題でございますけれども、そこら辺を見守っていきたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） NMBの問題については、その事実はないということで連絡があったということでもありますから、一応それはそれとしてお伺いしておきます。

それから、証明手数料の問題についても、10月からということも含めて検討されるということでもありますから、ぜひ早い時期にということをお願いをしておきたいと思います。

それから、ゴルフ場の関係でありますけれども、白浜町の水資源涵養林保護に関する決議というのを私も入手いたしまして読んだところでありますけれども、もともと千葉県はゴルフ場を新しく開設する場合には農業は使っちゃいけませんという形に現在既になっているわけです。したがって、水資源涵養林保護に関する決議の中でも、ゴルフ場という言葉は一つもないんです。ゴルフ場が困るというふうには書いてなくて、森林が乱開発されたら困るんだということなんです。ですから、今のお話ですと、ゴルフ場にしないからいいじゃないかということにはならないんです。白浜町の決議は、森林を水源保養林としてきちんとしてほしい、そこに乱開発なんかあっては困るんだというような趣旨の決議なわけです。ですから、ゴルフ場じゃなくて、ほかの開発ならばいいんじゃないかというふうな館山市の考え方とはちょっと違うところがあるわけです。その辺は——現在スポーツ施設とかいろんなことがあるようなんですけれども、水源の涵養ということからすれば、やっぱり森林が一番いいんです。森林として保存するのがやっぱり一番これはいいわけですから、そういう点ではどういうふうにお考えになっているのかなということです。

それと、4月の24日という問題——繰り返しこだわりますけれども、4月

の24日に申請が出されたといいますけれども、県の要綱は3月の31日までに相当の協議が既にあったものということなんですけれども、先ほどの説明ですと、4月に入ってからとなりますと、これは新しい県のゴルフ場の開発規制の抜け駆けだというふうなことになるんじゃないか。相当の協議というのは実際あったのかなかったのか。実際4月24日というのはおかしいんじゃないかなと思うんですが、その辺はどのようにお考えになっているのかお聞かせをいただきたいと思います。

それから、沖ノ島のサンゴの関係でありますけれども、教育長それなりにいろいろ思いがあるようでありますから、それはそれで理解するんですけれども、先ほど答弁がきちんといただけなかったわけなんですけれども、このサンゴというものの学術的な調査をはっきりすると同時に、この館山というまちの特徴点を語っている重要な資源ということで、豊かな海とか暖かい風土とか、こういうものの非常に象徴的な効果というのは大変高いという点で、これは積極的にやはり市としても、まず保存という問題をしっかりと据えながらもそういうことを考えておく必要があるんじゃないか。これは現在の沖ノ島サンゴ及び沼サンゴということも含めて考えておく必要があるんじゃないか。

沼サンゴについては私は大変心もとなく思っております。沼であそこに沼サンゴは展示されている。ブロックで周り囲って展示して、これが沼サンゴですというんですけれども、一応説明板はありますけれども、市がそれほど大きな意味を持っているとも思えないわけで、実際には沼サンゴはあそこにあるだけじゃなくて、香にも、そして塩見、坂田、ずっと、また館山の真倉だとか、あるいは私らの那古の方にもあったり、非常に広範囲に物はあるわけです。言ってみれば、館山は沼サンゴに非常に囲まれるような形であるわけで、そうしたものをそれぞれの場所でそれなりの展示をするというようなことを含めて、館山の市民が、そして館山を訪れる方々が非常に沼サンゴについての理解を深めていくということは、非常に館山市のイメージアップという点でも大きな意味があるんじゃないかなというふうに思うんです。そういうことで、もっと積極的な注目をするべきじゃないか。

詳しくはわかりませんが、恐らくこれは安房郡全域にあるいは広がる要素もあるのかなと思うんですが、この南房総の先端、安房というものが非常に豊かな海と環境に恵まれていた、そういう歴史、そして現在もそうなんだということを積極的にこうした実際の事実に基づいて、観光の大きなPRポイントといいますか、考えていくことも必要じゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） サングの問題につきましては、つい最近の報道で私どもも承知をした、知ったというような状況でございます。一面、サングというのは環境に非常に左右されやすい動物だというようなことも聞いております。その辺を踏まえましてひとつ今後の課題にさせていただきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、内協議が4月の24日ということでございますけれども、私の説明が悪かったと思うんですけれども、平成4年に入りましてたびたび精力的に参ったことは事実でございます。平成4年に入りまして――お正月からです。

それから、白浜町の問題でございますけれども、館山市が白浜町に意見書を求めています。その中ではゴルフ場ということが具体的に書いてありますので、今度のこの決議にはゴルフ場というのではないと思いますけれども、我々とすればそのようなことを判断したわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告をいたしました11問について御質問申し上げたいと思います。

今回の平成3年度予算案は、庄司市長にとりましては本格的に初めて取り

組んだ予算でございますし、同時にこの予算は庄司市長のもとで打ち出された5カ年基本計画に基づいて編成されたわけでございますので、庄司市長の真価を問われる予算であり、また決算になったわけでございますので、こうした観点から私は質問いたしたい。多少言葉が荒くなるかわかりませんが、その点は、そういった重要な課題だけに、ひとつあらかじめ御容赦をいただきたい。

総体といたしましては、私は良好に収支は決済されたと思うし、また無難であったというふうに思います。評価しては非常に失礼でございますけれども、私は合格点を与えたい、このように考えておるところでございます。

しかしながら、私はこの予算を執行するに当たって、非常に将来問題が派生してくるんじゃないかということについて2つだけ質問をしてみたいと思います。それは、予算執行その他に当たって、先ほど神田議員も言われたように、市長は常に議員の質問に対しては前向きに対処します、前向きに受け取りますという言葉が非常に多くて、その実行性が余り顕著に見られなかった、3年度においては、2番目には、同じように議員の質問に対しては、他の町村の動向を見て、また国の方針に沿ってどうしますという言いわけがましい答弁でその場を逃れるというような姿勢が私は見られてならなかったわけでございます。こうしたことは私は今までの議会の中にはなかったというふうに思うわけです。こういう状況が推移してまいりますと、私は館山市政にとって非常に問題が起きてくるというふうに思うわけでございます。問題が起きてからでは間に合いませんので、私はここで声を大にしてその点を指摘したいと思うので、よろしく願いいたしたいと思います。

私は庄司市政を批判する気は毛頭ございませんで、むしろ庄司市政に今館山が行くべき方向をしっかりと見きわめて立派な市政をつくり上げていただきたい、それをやっていかなきゃならないという観点から質問するわけでございますので、その点は誤解のないように御了承いただきまして、質問項目に入ります。

特に、こうした中におきまして、私は次の5項目についてはひとつ率直な答弁をいただきたい。事務局でもって書いた原稿をただ読んで、私の質問に

ついて時間が来たから用が済んだ、それで終わるといふようなことのないようにこれはもう真剣にひとつやっていただきたい。そういう形で私は質問したい。それは、まず第1は防災無線の問題、それからもう一つはリゾート整備の協議会の問題、3番目には西口の開発の問題、4番目には東口の開発の問題、そして5番目には神余小学校の建設の問題、この5つについてはひとつ奥歯に物を着せずに率直に態度を明らかにしてもらいたい。

非常にあいまいになっているんです。あいまいになっているのが3年度の予算の唯一の欠陥であって、これは欠陥として――落第点じゃございませんけれども、しかしながらこれがやがて落第点に結ぶような危険性を持っておるので、私はこの点については、ちょっと言いにくいんですがございますけれども、ひとつ言わせていただく、こういうことでもって御了解いただきたい。

こうした観点に立って、私は歳入歳出決算の事項別明細書に従いまして質問申し上げたいと思います。

第1点は、51ページでございます。2款1項7目13節委託料でございますけれども、この中に防災行政無線保守点検業務委託料というのがございます。それからもう一つ、15節に移りまして、防災行政無線戸別受信機改造工事請負費というのがございます。この防災行政無線について質問をいたします。

委託料は389万円であるわけでございますけれども、これは昨年度より91万円の増になっております。年々このように委託料がふえる理由について教えていただきたいと思います。

2番目には、改造工事請負費が179万円でございます。この内容がどういふものか教えていただきたい。予算編成時には179万円の予算で163台分を改造するというところで提案されておったんですけれども、この決算書には同じ予算額で261台分が計上されてあるわけでございます。どうしてこんなにたくさんのが同じ予算でできたのか、その内容と経過について御説明をいただきたい。

3番目には、17日の行政一般質問の中で植木議員より防災無線の放送についての質問がなされたわけでございます。私もこの防災行政無線との関連においてこの点について質問したいわけでございますけれども、市長はその

答弁の中でもって、火災災害については利用できない、その大きな理由といたしましては、やじ馬や何かが来て非常に支障を来す、こういうような答弁をされておったわけでございます。これは答弁としてはそうかもわかりませんけれども、私はこれは理由にならないと思います。

4年前に半澤市長と私はこの問題について大議論をいたしました。市長も後非常にこれを気にしまして、どうしたらいいんだということでもって個人的にも話し合ったことがございます。そのときは台風によって内房線が寸断された。8月の1日だったものですから、観光客が帰るに帰れなくて3日間足どめを食った。その状況を防災無線でもって放送して、市民だとか観光客、そういう人に対して連絡したらいいだろうということでもって再三申し上げた。私も申し上げたんですけれども、いや、制度上できないということでもって、風水害の災害と地震の災害とどこが違うんだということでもってやったんですけれども、そのときには館山の規則がそうになっているんだということでもって逃げたというんですか、回避したわけでございますけれども、また同じようなことを繰り返しているということでもって、これは納得できない。特に私は、このやじ馬云々ということがありましたけれども、1つはここでもって災害行政無線がそういうかたくなな状態でもって使われておるということについては、私は予算執行上適切じゃないというふうに思っています。

半澤市長は、補助金もらうときには、この防災無線というのは津波、地震、これに対してのみ利用するということを条件に補助金もらっているから、辻田君言うように風水害だとか、それはわかるけれども、使えないんだということをおっしゃっておりまして、これは何とかしなきゃならないと私は個人的には思う、国がそうになっているからちょっと検討してみましょう。しかし、他の町村ではいろいろな放送をしているから、あれは違反だ。違反に私は追従できないというような形でもって、検討しようというままだに今日に至ってきたわけでございます。同じような論議でもって今度は植木議員のものに対してのは、私は市長の姿勢として問わなきゃならないというふうに思っています。

サイレンが鳴ってぶんぶん行きますというと、私もそうですが、近所の人だとか、どこが火事かということでもってたまげるわけです。そして、その不安と動揺は大変でございます。私電話局へ電話しました。消防がサイレン鳴らして出動した直後には電話はパニック状態になるそうでございます。役所だとか消防署に盛んに火事はどこですか、ここですかということを書いて、そして非常に不安な状態に陥る。これは何とかしてもらわなきゃならない。

千葉県の中でも、安房郡の中でも半数以上のところがこれを放送しています。市長は盛んに他市町村の動向と言われますけれども、他市町村がやっていてどうして館山はできないんだ。やじ馬が来る来ないということだとか、やってみてやじ馬が来たらやめたらいいんであって、またやじ馬が来るようだったら、火災出動で出て行って、ある程度消火が終わるような段階でもって放送すれば、そこから、後から来たって、やじ馬が幾ら来ようが何しようがいいんであって、そのぐらいの運用と弾力性を執行部は持たなければ、私は何事においてもやはり市民本位の行政というのはできない、このように思うわけでございまして、この点については――植木議員に対してはああいう形でもって済んだかもわかりませんが、私は4年前の論議とあわせて、これは庄司市長は市民の要求を大事にして、その要望に応える市政をやっているんだというのが庄司市長の最も基本的な政策であり、またそれがポリシーでもあるわけでございます。そういう観点からいえば、この問題は当然私は解消していいと思うわけでございます。その言葉が出ないということについては私は非常に残念でならない。あえてここでもって質問を加えるところでございます。

それから、防災行政無線の今の所持者――どのぐらいの人が持っておるのか、そして自主防災会の会長に与えられているということでございますけれども、その数はどのぐらいなのか、そしてどういう内容がどのぐらいの回数、頻度でもって放送されておるのか御質問をいたす次第でございます。

2番目は、53ページでございます。2款1項9目13節でございます。この委託料でございます。この委託料の中にはワードプロセッサ保守委託料とパーソナルコンピュータ保守委託料がございます。それからもう一つは、54

ページの14節にはこのワープロとパソコンの借上料がそれぞれ計上されているわけでごさいます、このワープロとパソコンの借り上げ、保守について御質問をしたいわけでごさいます。

いずれも前年度より平成3年度は値上がりしております。この値上がりの根拠はどのようにして算出されておるのか、その点についてお伺いをいたしたいと思います。

それから、今どのぐらいの借り上げ台数と、どのような機種が使われておるのか、この点についてお伺いしたいと思います。

3番目には、館山市の小中学校の教育現場にあるところのワープロ、パソコンについては全部買い取りでごさいます。したがいまして、借上料の予算は一銭もごさいません。しかしながら、保守委託料は庁舎と同じぐらいのものがかかっておるので、大体同じぐらいの数があるんじゃないかというふうに思われるわけでごさいます。市役所の庁内にあるワープロやパソコンは借り上げの方がいいのか、学校現場の方は買い取った方がいいのか、どういうメリットがあってどうして2つに分けてやられておるのか、この点についてわかりやすく教えていただきたいということが2番目でごさいます。

3番目には、82ページに移ります。82ページの4款2目11節需用費でごさいますけれども、ここの機械修理料並びに83ページの3目11節、やっぱり機械修繕料、これは前者はじんかい処理場の修理費でごさいます。後者の方はし尿処理場の修理費でごさいます。じんかい処理場は9,289万円、し尿処理場の方は3,554万円、これは前年度よりもいずれも増加しております。どうしてこの修繕費が年々増加しなければならないのか、その理由について教えていただきたい。

2番目には、このような処理場の施設については、自動車の定期検査のように定期的に毎年やっぱり3,000万前後のもの、またじんかい処理場については9,000万程度のものの点検なり修理というのが義務づけられておるのか、この点についてお伺いしたい。たまたま修理箇所が出てきたので修理をしている。それがこういう形の数字にあらわれて、二、三年来同じような動向できている、こういうことなのか。そうだった場合に、どういうところがどう

いう形でもって修繕しなきゃならなかったという修繕内容について御説明を
いただきたい。

4番目に移ります。82ページの4款2目14節、使用料のところでございま
す。ここの自動車借上料でございますけれども、古紙の回収が行われてお
るようでございまして、本年度は731トンの古紙が回収されたようでござい
まして、非常にその成果のほどを評価いたしたいというふうに思います。

そこで、この自動車借上料136万、これは去年は93万が136万に上がって
いるわけでございますけれども、これはどういう形で上がったのか、どうい
う形でもってこの自動車の借り上げをして古紙の回収に当たっているのかま
ずお伺いしたい。

今後この古紙の回収というのは、3年度731トンはふえる動向にあるのか、
減る動向にあるのか、この見通しについてどのように考えておるのかお伺い
したい。

3番目に、2年ほど前に、鉄くずが今まで売れておりまして、多分広域圏
の方のあれで年間3,000万から4,000万ぐらいの売上金があったのが、逆に
今度は3,000万から5,000万ぐらいの処理代を払ってやらなきゃいけない。
上げ下げ5,000万から8,000万ぐらいの欠損が出てきた。その動向はいまだ
に解消されていない。そうすると、この古紙についてもそういう状況が出て
くる懸念があるのか、そういう点については検討されておるのかどうか、そ
の点についてお答えをいただきたいと思います。

5番目には、84ページでございます。4款3項1目24節、投資及び出資金
の中でもって南房総広域水道企業団の出資金が4億9,410万円が計上されて
おるわけでございます。これは当初予算においては7億3,584万円であった
ものが、減額補正2億4,000万円をいたしたものでございます。この点につ
いて御質問いたします。

この当初予算から減ったときに、7億から4億に減ったときに説明はござ
いましたけれども、この4億の決算によってどのぐらいの事業量が消化でき
たのか、その事業量は3年度の計画を十分満たすことができたのか、満たす
ことができなかったのか、この点についてお伺いしたい。

さらに3番目には、そのことによって事業量が取り残されたとすると、補正で減額された2億4,000万円は後年度に繰り越して事業を実施しなきゃならなくなるのかどうか、この点について。

それから4番目には、こうした形でもって繰り越さないし補正減額したことによって給水期日が延期される可能性はあるのかないのか、この点について御説明いただきたいと思います。

それから6番目、98ページでございます。7款1項3目19節、負担金及び補助金でございます。この中のリゾート重点整備地区整備推進連絡協議会負担金39万1,000円でございます。この点については神田議員が質問いたしましたので、第1点の部分についてはほぼ同じでございます。バブルがはじけて今リゾートが非常に雲行きが怪しくなっているんじゃないかということについてどのように考えるかということについては、これは神田議員の答弁で御了解します。

2番目には、この連絡会議の内容がこれまで議会に非公開であったわけでございます。そして、この点について何回質問しても、企業秘密であり、これを公表することによってできるべきものができなくなるということでもって、常に我々はシャットアウトを食ってきたわけでございます。しかしながら、3つの重点整備地区が決定しながら、1つが何かわかんないうちに引き上げていって今2つになった。その2つも、巷間伝わるところによりますると、1つはもう怪しい、もう80%引き揚げたんじゃないか、こういうようなことも入ってくる。入ってきても、我々としてはどういう実態になっているかということを議会の中においては全くつかむことはできない。私の能力がないのかもわかりませんが、ほかの議員についても全くわかんない、こういうことを言っているわけでございますけれども、もう議会に対してはリゾート研究会がどのようなメンバーで、どのような問題をどのように協議して、そして重点的な整備をどのように進めていくのかという討議の過程なり概要は全く知らされておられません。知らされていないにもかかわらず毎年補助金が出ているわけです。調査委託費も300万とか500万という膨大な金が出てきているわけです。何か今それが怪しくなってきた。ここら辺でもっ

てもうそろそろその内容は議会に対して明らかにしてもいいんじゃないかと思うんですが、明らかにしてもらえないんでしょうか、その点を — 今の状況、これが1点。

それから2番目に、私は今年度からでもこの協議会に対して議会の代表2名ないし3名を私は入れるべきだと思うんです。そして、議会の意見も反映させるし、また専門家の意見というものも十分議会が吸収して、いかに対応するかという — 官民一体、議会と企業と行政が一体になって進まなければリゾート開発なんていう大プロジェクトは進みませんです。その点について私は今まで随分半澤市長時代に食いついてきたけれども、議員は蚊帳の外。いまだに蚊帳の外です。もう今になってくると、議員というのは随分軽く見られたという気でもって腹が立っていけないようなことも何度かあるわけでございますけれども。庄司市長さんでございます、議員の意見をよく聞いていただきたいと思います。入れていけないというのは何もないわけです。市長が決断すればできるんです。このことを今やる時期だというふうに思うわけでございますけれども、そこら辺の市長のお考えはどうか。

議会と一体になって、企業と議会と市が一体になってやる。このことについては、議会を入れるといろいろと秘密などが漏れてぐあい悪いなんて子供扱いしていて、ばかにしているなと思って — ばかにされてもきれいにでき上がればああさすがと思うんですけれども、何か怪しくなってきた、知らない間にリゾートがだめになっちゃったということでもって、議員の連中はばやばやしているんじゃないか、こういうようなそしりを受けたんじゃないかと我々としてもたまったものじゃないし、またそういう点で我々の心境と、この事態の解決をやっぱり市民ぐるみでやるという姿勢をとっていただけるのかどうか、この3年度の予算執行の中でどのように考えておられるのか、この点をお伺いする次第でございます。

7番目に、109ページでございます。8款5項6目15節工事請負費でございます。この中に土地区画整理事業工事請負費 5,427万円が計上されておるわけでございます。この点につきましては、区画整理事業による整地を行うということで説明があったわけでございますけれども、その規模、面積は提

示されておりませんでしたので、どのぐらいのものが、規模と面積のものが完了したのか教えていただきたい。

2番目には、この事業区域の中にはかつて市が購入したため池で長い間裁判にかかっていた場所が含まれておるのではないかと思うんですけれども、含まれておるのでしょうか、おらないのでしょうか、この点をお伺いしたい。

3番目には、裁判により和解を受け入れまして、一部の土地を買い戻されただけでございます。その土地があつた埋立地の中でもってぽっかりとあいて、水たまりになっていてみっともなくてしょうがない。現場の職人からあそこを私が通ったときに4回か5回、辻田さん、これ何とかしてくださいよ。ここだけ事業ができないでおえない、これでいいのかよというようなことでもって、これで3回目だよというようなことでもって言われまして、聞いてもなかなかあそこだけ残ってしまつて、どうなるかということは非常に心配でございます、ちょうど中心部でございますから。そこの今あそこだけ残っている土地は今後どのようにされるのか、そしてどのようにして――裁判まで起こして、トラブルの起きた土地でございますから、整地が可能なのか、どのような見通しを持っておられるのか、その点についてお伺いしたいと思います。

それから8番目に、110ページでございます。8款5項6目19節、負担金補助及び交付金でございます。ここには出てないんですけれども、館山駅東口D E地区市街地再開発研究会補助金50万円が当初予算にのつておったんでございます。これが補正減額されて、3年度決算の中でもってなくなっちゃっているわけでございます。そして、しかもこれは平成4年度の中においても予算は計上されておりません。この点についてお伺いしたいわけでございます。

この駅東口の再開発については館山市の最大の課題であり、半澤市長が16年の間命を縮めて取り組んだ事業であつたわけでございますけれども、完成に至らないまま――議会の中ではかなり進んでいる進んでいるという答弁があつたんですけれども、最後はしり切れになった、こういうことでございするから、これは、はいそうですかというわけにはいかない。そして、補正

予算のときには私も遠慮して十分な論議をしませんでしたけれども、今回は決算でございますから、その点について——庄司市長のためにもこれはもうきちんとしてもらわないと私は大変なことになろう。非常に商業界——館山の玄関というところだけに、扱いによっちゃ大変なことになるので、そういった点から3点質問したい。

1つは、今後東口の再開発についてはどのようにして対応していくのか、もうあれは放棄したのかどうかということ、この点についてははっきりしてもらいたいと思うんです。放棄したんなら放棄したような形でもって次の手を考えなきゃなりません。今まで松尾さんという方を会長に10何年続けてきて、その補助金、さらには調査委託金は膨大な額でございます。大変なものが行われてきたのがここでもってちょんになるということは納得できない。ちょんになるまで大東亜戦争と同じように市の方の答弁は一貫して進んでいます、近いうちにあそこは、駅前が変わりますというふうな形、さらには模型までできて我々に見せてもらって、そしてそのために視察にも随分私も行きました。そして、あしたからでもあさってからでもできるような状況にきながら、最後がうっちゃり、もうだめですという形じゃないかと思われるんですけれども、これがそういうことになったら大変なことでもって、この点についてどうなっているのかお伺いしたい。

それから2番目には、これは基本的な問題でございますけれども、この東口の開発研究協議会は、長い間の協議の結果、駅は横断橋でやるということでもって結論をつけて、我々も説明を受けたし、その調査報告書も出てきているし、模型もできてきていたわけでございます。しかしながら、今度の5カ年計画に、市長が策定しました5カ年によりますと、橋上駅になっているわけです。当初は橋上駅であったものが途中から横断橋に変わり、そしてその研究協議会は横断橋ということでもって終始一貫やってきたわけでございます。それが5カ年計画になると橋上駅というのが出てきたから、あれあれと私は思ったわけでございますけれども、市長が5カ年計画の中でもって横断橋を中止して橋上駅をやるんだという方針を出したために、今まで長い間研究し、やってきた研究会の人たちが市の方向と意見が全く食い違ったか

らやめたということでもってやめたということになったのかどうなのか。客観的に見ればそうしか見れないわけでございます。

この点は、研究会が進めてきた横断橋と市長が5カ年計画の中でもって橋上駅と打ち出したところは完全に矛盾しているわけです。初め橋上駅からスタートしたものが、あの研究会は10何年かにわたって横断橋ということでもってやってきているわけ。我々もそういうことで理解してきた。突如こうして橋上駅という形がぽんと出された。その落差をどう埋めたかどうかという問題が今回の研究会の解散というんですか、補助金打ち切りとの因果関係があるかどうか、この点について私は伺いたい。

この点ははっきりさせておかないと、やはりこの東口については大変なことです。私は特に — この中の半数以上の議員はそうだと思いますけれども、膨大な金と調査費をつぎ込んできて、今あれはもうだめになったというようなことでもって、簡単にそのぐらいでもって済ませる問題じゃない。これはもう責任問題が出てくるぐらいの問題だと思うわけです、市民に対して。議員の一人としても痛感する問題ですから、このままでは済まされないと思うんですけれども、市長のひとつ腹を篤と伺わせていただきたい、このように思います。

次に、今度は9番目です。118ページの15節工事請負費の中に神余の学校の修理、改築その他でもって4項目、その総予算について約800万円の工事請負費が計上されているわけでございますけれども、この神余の校舎は今館山市の中でもって一番古い校舎であって、どうにもならない校舎であることは御案内のとおりでございます。本来であれば、これは20年前に神余小学校は鉄筋コンクリートでもって新しい校舎に建てかえるという方針であったんだけれども、統合の問題が絡んでストップ食った。もう20年前にあそこは危険校舎に指定されていたわけです。そして、15年ぐらい前には前の市長は、危険校舎は全部完了いたしました。そして、10年前にはもう既に館山市の全学校は神余小学校を残して老朽校舎は全部建てかえて完了したということになっています。その後、もう既に新しく — 神戸小学校なんか一番初めだったものですから、2度目の建てかえの校舎をつくるというところまできてい

るんですけども、神余小学校だけは依然として同じ。

このことについては論議はもうされてきて、決着をつけなきゃいけなかったんですけども、3年前の議会においてこの問題について——相当の予算をかけてあそこの校舎を修理したわけでございます。そのときに教育委員会の答弁としては、統合の方向で努力をしていきます。そういう方向できています。しかしながら、当分は地元の問題等もあるのですぐにいけないので、きょうの教育をするために、雨漏りがしているような状況の中じゃできないから、予算はもったいないかもしれないけれども、膨大な予算でもって大修理をするということでもって修理をして、御承認願いたいということでもってこれ了解したわけでございます。こうした形のものが3年前。さらには、それより10年前とか何年前からやってくると、もう修理費だけがかさんじゃって、かけた修理費でもってとくに新しい校舎は建ったんじゃないかと思うぐらいの金が出ている。

そして、またまた800万のこういう修理が出てくる。今回の場合には窓を5カ所直すということになってますけれども、窓を5カ所直したぐらいでもって応急手当てとして大丈夫なのか。本体もうぼろぼろですから、もうやってもむだじゃないかというふうに思うわけでございまして、こういう状況が長く続いてきているので、今度の市長さんは教育現場に長い間いたわけですから、その間の経緯はよく知っていると思うんでございしますけれども、あそこの問題については、もう新築するなりしてびしっとしちゃう。統合は統合の問題でもって、できなければできないでもって、これは継続しても結構だと思う。修理費、修理費でもって、じきできるような形でもってどんどん、どんどん延ばして、10年、15年きちゃって、今日まできて、こういう状態を教育現場に置くべきじゃない。

また、市の予算から見ていけば、そんなもう使ってもむだな、もうどうにもならないときに、雨が漏ってきた、風が入ってきてどうにもならない、修理してくれ、修理費がどんどんかかる、そんなあれすれば、10何年間にもうその修理費は——もう新築したのができちゃっているんじゃないか。あのときつくっちゃっておけばこういう問題ないんじゃないか、こういう問題すら

議会の方から出てくる。

ここでもってやはり市長、教育長はその点についてよくあれして、あそこはもう修理なんかでもってごまかすんじゃなくて、建てるんなら建てる。統合問題は、そこでもって統合するのか、できなければできないでもって建てて、建てた中でもって統合問題は別にして考えるというような形をとるべきだ。

これは小宮議員が強調された点でございしますけれども、私も同じような立場で、これは決断して——またまたここに出てきて、また来年も再来年も同じように出てくると、私はそう何回も——10何年にわたっていいです、いいですというわけにはいかない。直しても直しがいいような校舎なんですから、この点についての決断をひとつ——これは市役所の職員の答弁だけでもって済ますんじゃなくて、本音でもってやるかやらないのか、そういう点でやっていただきたい。

これはごまかすとか、ここだけでもって済まされるということじゃなくて、私はこの議会の中でもってどうなのか。小宮さんが言っていたように校舎を建てるか。建てるなら建てる。統合は統合として、別建てでやるかやらないか、それとも統合で一遍でやっちゃうかというあたりの結論はここで出していきたい。もう長い間の宿題になっているわけでございしますから、私はその点についてひとつ——言葉はきついわけでございしますけれども、私はその点をひとつ御質問申し上げます。

10番目には、129ページ、10款5項2目19節でございしますけれども、ここに公民館の行事傷害補償保険料、それから135ページの同じく2目19節の市民総合賠償保険があるわけでございします。前者は104万円、後者は37万2,000円というものでございしますけれども、この2つの補償保険の内容と対象の範囲はどのようになっているのか、まずお伺いしたい。

2番目には、この保険により対象になった件数、事例がございましたら教えていただきたいと思います。

3番目には、この保険は学童災害保険並びにスポーツ傷害保険の任意の加入との競合並びに兼ね合いがあると思うわけでございしますけれども、この辺

はどのようになって運営されておるのかお伺いをしたいと思います。

それから、最後になりますけれども、132ページでございます。10款6項1目1節でございます。体育指導委員の報酬でございますけれども、文部省は5年ほど前に社会体育指導員の認定制度を設けました。これは社会体育といえども非常に高度化し、そして非常に重要だ、これを単にボランティアだけがやるということでは、事故の問題、また指導方法において精神的、肉体的に不具なものをつくるおそれがあるので、資格を持たない人についてはこれを扱わせない、こういう前提のもとに——これはヨーロッパのほとんどの国が自分の子供以外の子供を教えるときには、スポーツを教えるときには、その資格を持っていない人が教えると罰則制度、それによって事故が起きた場合には相当な損害賠償を取られるという制度になっておるものですから、日本もそういう先進国の仲間入りをしようということでこれはできて、私もこの審議会に公聴人ということでもって、スポーツ少年団を代表して文部省の諮問に応じたわけですが、文部省の方としては向こう5年ぐらいの間に実施したい。だけれども、スポーツ少年団としては5年でやったんじゃ指導者のもうほとんどがだめになっちゃうんで、スポーツ少年団解体しちゃうからもうちょっと延ばしてくれということでもって、結局文部省の方もそれを入れてくれまして、10年ぐらいの暫定措置を持ってやっていこう、こういうことであったんです。

その中でもって文部省の役人が申したのは、自動車の運転がどんなに上手であっても、無免許で運転されたらこれは違反であるし、秩序が保てない。学校の教育をどんなに立派な人が——教え方がうまくても、教員免許を持たない人が子供の教育をやったんじゃ父兄は心配でならないと同じように、体育の指導の資格を持たない人がやたらに教えたらどういうことになるのか心配だ。これはもう近代国家の中では当たり前だということが言われておって、そういう面では館山市は、これはスポーツの振興に力を入れているわけでございますから、この点について対応していかなきゃいけない。

その最先端に行く体育指導員がこの資格を持っておるのか持っておらないのか、何人ぐらいの割合でもって所持しておるのか、その比率についてお

伺いをいたしたいと同時に、持っていない人がいれば、これは将来どのような形でもって取得させていかせるのか。

私はもう公的な文部省の指示によってできておる体育指導員が無資格者であるということとはできない。もう制度が発足して5年になるわけですから、やはり資格を取ってもらわなければ — 次の任命のとき等については、これはひとつ十分チェックしてもらいたい。そのためには、やはり講習を受けて、そして資格を取ってもらうと同時に、館山市がスポーツの振興をしていくために指導者の育成ということが中心になっているわけですから、多くの指導者にこの資格を取ってもらうような指導と援助をしていく気持ちがあるのかなのか、この点について伺いいたしまして、私の質問を終わります。答弁により再質問いたしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えしますが、お答えします前に、激励やら御忠告を賜りましたけれども、私はどなたの議員にも毎回真剣にお答えしております。市長としての私の責任においてお答えしておりますので、御理解を賜りたいと思います。

それでは、大きな問題5点、具体的な11項につきましてお答えいたします。

第1、防災行政無線についての御質問でございますが、当初予算と決算書との差でございます。その理由といたしまして、改造工事と修繕台数の合計によるものでございます。改造の内容でございますが、自主防災会長宅の戸別受信機により詳細な情報を提供できるようにしたものでございます。

現在戸別受信機の設置総数は 332台、設置箇所は自主防災会長宅、保育園、学校、警察等防災機関、消防団幹部、市の幹部職員、市の施設、急傾斜地危険箇所対象世帯、特別養護老人ホーム等災害弱者施設でございます。電波の受信状況ですが、良好な受信状態を確保できるよう、毎月第1火曜日に試験放送を実施しております。年間における運用状況ですが、平成3年中におきましては台風等災害関係で20回、そのうち戸別受信機のみを4回放送いたしました。今後の増設計画ですが、現時点では考えておりません。

なお、自主防災会長は戸別受信機を順次新しい会長に引き継ぐようにしております。

次に、屋外拡声子局からの火災の放送はできないかとの御質問でございますが、今議会におきまして植木議員から御質問がありました際も御答弁申し上げましたように、使用基準は台風、津波等の災害に限って使用することとしております。昨年度変えましたところは、台風災害によりましてＪＲの交通途絶あるいは道路の交通途絶などの場合に市民にいち早く連絡するということを——ＪＲの駅及び警察等と協調しまして放送を行っているところでございます。その他につきましては、消防委員会におきましても審議いたしましたが、現在の災害に関する以外は使用しない方針で、現在の使用法が最良であろうということになっております。

幸いにしまして地域に大火とかその他の大きな災害がないことを喜んでおりますが、火災の場合も地域性——例えば密集地域における火災とか、あるいは自然条件——物すごい西風が吹いているとか、大火が予想されるとか災害の拡大が予想される場合以外はやらない。最近幸いにして放送する機会がないことを喜んでおります。以上でございます。

次に、第２点目、ワープロ、パソコンについて借り上げによる導入を行っているが、そのメリットは何か、また導入台数は何台かとの御質問でございますが、一般にＯＡ機器の高性能化、低コスト化等、新機種開発への取り組みは３年程度を目安に進められていると聞いております。こうした状況を踏まえまして、買い取りに比べ、現行処理業務の量及び内容等、事務処理の動向に合わせました新機種への交換のしやすさを考慮いたしまして、借り上げによる導入を実施しているところでございます。また、これによる現在の導入台数はワープロ３８台、パソコン２１台となっております。

次に、第３項、修繕費の御質問でございますが、施設内のトラブルによります搬入停止を防止するため毎年行っております定期修繕が主なものでございます。清掃センターにおきましては、燃焼設備、炉本体の設備、ガス冷却設備、破碎設備、電気集じん設備等の修繕費でございます。粗大ごみ処理施設におきましては、破碎機、選別機等の修繕費でございます。し尿を処理す

る衛生センターにおきましては、I Z循環ポンプ点検整備、遠心脱水機整備、前処理設備、活性炭再生炉点検整備等の修繕費でございます。

次に、4点目、古紙回収についての御質問でございますが、業者等により回収されました古紙は直納問屋を経て製紙メーカーへ納入され、再生されております。しかしながら、最近製紙メーカーでの需要が減少し、価格も下落傾向にありまして、逆有償問題の発生が懸念されております。

次に、第5点目、南房総広域水道企業団の出資金につきましては、地方公営企業繰り出し基準に基づきまして、国庫補助対象事業費の3分の1を構成する17市町村で出資することになっております。国庫補助率が大変厳しく、これに伴い約33%の減額となったものでございます。

平成3年度の主な事業は送水管の布設でございますが、総延長156キロメートルのうち約34キロメートルを施行いたしました。減額分であります事業の浄水施設につきましては、後年度に取り戻すべく、平成4年度から3年間で沈殿、ろ過池等の各施設を完成させると伺っております。したがって、当初目標を変更することなく現在鋭意努力しているところでございます。

第6項、リゾート重点整備地区整備推進連絡協議会に関する御質問でございますが、協議会は、国が承認いたしました房総リゾート地域整備構想を受けまして、自治体と開発事業者等の連携によりまして、リゾート地としての整備を計画的に推進することを目的に設置されたものでございます。協議会は自治体と開発業者により構成されておりますが、目的を推進するために、商業、観光、農水産業等の関係者に参与として参加いただいております。主な活動内容は、重点整備地区実施計画の策定や漁業関係者との懇談、先進地の視察、房総リゾート地域の整備に係る道路整備の促進等、国への要望活動を行っております。したがって、協議会はリゾート整備の推進を図るために今後も存続する必要があると認識しているところでございます。

なおまた、現在進められております2つの民間リゾート開発計画につきましては、事業者において都市計画法に基づく開発許可申請手続の準備が進められているところでございます。

なお、ここで御意見のございました行政推進上、各種協議会、委員会の議

会の代表参加、一体感の問題でございますが、歴史的な問題もございますし、いろいろな立場でいろいろ御意見をちょうだいしてありますが、これとは離して今後検討すべき問題かと思います。

第7項目、西口工事の進捗状況についての御質問でございますが、平成3年度末まで道路の築造、整地等合わせまして9,000万円の工事を施行し、事業費ベースで約20%の進捗状況となっております。

また、沼地の一部が埋め立てられていないが、今後の対策と見通しはどうかとの御質問でございますが、当該土地につきましては現在仮換地指定の準備を進めておりますので、今後指定条件が整い次第仮換地の指定を行い、埋め立て工事等を施行してまいりたいと考えております。

第8番目、東口D E研究会についての御質問でございますが、昭和61年度から市街地再開発事業を積極的に推進しようとするグループ——館山駅東口D E地区市街地再開発研究会に対しまして再開発事業に関する研究活動費を補助してまいりました。しかし、平成3年9月、再開発ビルの核店舗となるべき権利者から東口の計画を断念せざるを得ないという理由により大規模小売店舗廃止届出書が提出されたため、同研究会の研究活動が中断している状態でございます。したがって、平成3年度の同研究会に対します補助金を交付しないこととしたものでございます。

ここで御意見のございました横断橋と橋上駅の問題でございますが、当館山市議会におきましても、10年間の時代の推移を考え、橋上駅舎の請願を採択されたばかりでございます。

続きまして、第9項目、神余小学校の工事請負問題、それから第10、公民館保険料及び市民総合保険料問題、第11、体育指導員の問題、これにつきましては教育長より御答弁申し上げます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

神余小学校の工事請負費についての御質問でございますが、義務教育であ

ります以上、子供たちが安心して学習できる環境を最小限整備していかないと存じております。そのための修理をいたしております。

なお、神余小学校は統合するという基本方針には変わりございません。地域住民代表の方々と統合の話し合いは大分進んでいると考えております。

次に、公民館保険料と市民総合保険料の内容についての御質問でございますが、まず公民館保険料の内容でございますが、対象となる事故は公民館行事参加中の事故、行事に参加するための往復途上の事故、公民館利用者の施設内での事故であり、補償金額は死亡——後遺症を含む。1人700万円、入院、1日4,000円、通院、1日2,000円、掛金は1館当たり8万7,000円でございます。平成3年度中の対象事故件数は4件で、すべて数日間の通院程度でございます。

次に、市民総合保険料の内容についてでございますが、この保険は賠償責任保険と補償保険の2種類の保険により構成されております。賠償責任保険の対象となるものは、市が所有する施設の瑕疵や市の業務遂行上の過失に起因する事故について、市に法律上の賠償責任が生じることによってこうむる損害について保険金を支払うものでございます。また、補償保険の対象となる事故は、市が主催するスポーツ行事、社会教育活動等により市民がこうむった事故について補償金を支払うものでございます。賠償保険の限度額は、対人、1名につき3,000万円、対人、1事故につき3億円、対物、1事故につき1,000万円、補償保険は死亡200万円、入院、1日から91日以上1万円から5万円、掛金、住民1人当たり6円71銭でございます。賠償保険及び補償保険とも過去2年間におきましては適用はございません。

なお、他のスポーツ保険との競合はないかという話でございますが、スポーツ安全保険並びに一日行事保険等がございまして、これは各団体で任意で入っておるわけでございます。

次に、体育指導委員についての御質問でございますが、現在館山市体育指導委員は22名でございます。体育指導委員の中でスポーツ関係の資格取得者は、日本体育協会公認スポーツ指導者3名、千葉県社会体育指導員2名、スポーツ少年団認定育成指導員1名、スポーツ少年団認定指導員5名、日本陸

連公認審判員3名となっております。今後も指導者の資質の向上に努めてまいりたい、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勲君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） ありがとうございます。

時間もございませんし、また特別委員会が設置されまして、その中で審議されますので、ここでこれ以上やっても特別委員会の課題がなくなるので、私は終わりたいと思うんですけれども、一点だけ、一言でいいですから御答弁を市長にいただきたい。

先ほども私が強調しましたように、いろんな問題で議会と市長の関係がびったりいっていない、このことに私は尽きると思うんです。答弁している中に相当矛盾があるわけです。

それは、防災無線等については消防委員会等でもって十分審議して、そしてやったというんですけれども、消防委員は市議員とどういう関係にあるか御存じですか。私は消防委員を長くやっていたんです。そして、消防委員当時は5名おったんです、消防団員と同じに。だけれども、議員は、消防委員会でやったものを議会でもってまたやるから、二重にやることないからというわけでもって減らされたんです。それがいつの間にか消防委員会の決議はこれらの決定について議会より優先してしまって、それを市長が採用してこれだからという理由はありますか。私が消防委員会をやめさせられるときに言われたのは、消防委員会でやった結論は全部議会で承認を得るから、そこで議会の人はやってもらえばいいんだということだけれども、ないじゃありませんか。えらい矛盾しているんです。

それからもう一つは、リゾートの問題について研究協議会で――先ほども出ました。出るものについては、研究協議会だとか、そういうものでもっていろんな審議をして、そういうものを得て出たというんですけれども、議会ではそういうものを議員はどのような内容でどうかということについて審議せずに、これらの研究協議会の中に議員も入っていない中でもってやられて、それが今度は県へ行って、国でもって許可されました。許可されましたから

やりますと言ってきたんじゃ、議員は全く何やってんだかわからないじゃないですか。そういう面で、これらのものの——リゾートの許認可を出す前にその内容については議会の中で徹底的に討議してもらって、それから出すのか、それを省略するんだったら、今のをやるんだったら、その協議会の中に議員の代表、議長とほかに1～2名入れて、その中でとことん意見を出させたらいいじゃないですか。それもしないということになったら議会と議員はどういうことになるんですか。

これはそちらから見ると、市長や執行部から見るとどう思うか。議員から見れば、議会制民主主義の中では、我々議員は選挙民に選ばれて、選挙民の代表として市民の声を市政に反映させるという重要な役目があるわけです。これは市長の権限と議員の権限というのは同格です、法律上は。日本の法律は。そういう面で、こういう問題が一つ一つ軽視されているということについて、これは市長は転換してもらわないと今後やっていけません。それが大きな破綻に結びつきます。その点だけについて一言御答弁いただきまして、私は終わりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 御意見ありがとうございました、基本的には一体だと考えているんです。要するに、どうしたらこの防災無線が市民のために有効に活用されるかということでございますから、今後意見を参考にしながらさらに検討を進めていきたい、こう考えております。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第7号、平成3年度各会計決算につきましては、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会

を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

3番議員 島田 保君	5番議員 宮沢 治海君
6番議員 植木 馨君	9番議員 脇田 安保君
13番議員 榎本 春光君	19番議員 川名 正二君
20番議員 生稲 陞君	21番議員 神田 守隆君
23番議員 石井 昌治君	28番議員 飯田 義男君

以上10人を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々には後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後零時01分

◎議長(福原 勤君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明22日から28日まで委員会審査のため休会、次会は9月29日午前10時開会といたします。その議事は、議案第60号乃至議案第67号、認定第1号乃至認定第7号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは9月29日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第7号

1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任